

単元名「しらせたいことをかこう」

教材 「は、を、へ」(教育出版1年上)

児童の実態

本学級の児童は、国語の学習に意欲的に取り組むことができ、積極的に発表しようとする児童が多い。「書くこと」については、5月に「えとことばでかこう」で自分が描いた絵に合わせて文を書くこと、6月に「ぶんをつくろう」の学習で主語・述語と句読点を使った一文を書くことを学習してきている。その際に助詞「は、を、へ」の使い方についても触れてきた。児童は絵を参考に進んで文を作っていた。しかし、文が長くなったり、他教科でも文を書くことが増えたりすると、「は」と「わ」、「を」と「お」「へ」と「え」の区別がつかずに文を書いている児童が多い。

本時では、助詞「は、を、へ」の扱いが最後のまとめの学習として位置づけられている。そのため、助詞が入った文型を使って書かせるだけでなく、「は、を、へ」を自由に使って書かせる活動や、教師が読む文を正しく書く活動を取り入れ、助詞「は、を、へ」に慣れ、理解を深められるようにしたい。

単元のゴール

- (1) 友だちに知らせたいことを思い出し、文章に書き表そうとしている。
(関心・意欲・態度)
- (2) 書く相手を決め、題をつけて、経験したことを文章に書くことができる。
(書くこと)
- (3) 語句や文のつながりに注意して、文や文章を書くことができる。(書くこと)
- (4) 平仮名や句読点などを、おおむね正しく書くことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)
- (5) 敬体で書かれた文章に慣れ、敬体を使って書くことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

課題

友だちや、おうちの人などに知らせたいことを書くことになりました。どんなことに気をつけて書いたらよいでしょう。

言語活動

○経験したことを報告する文章を書く

休み時間に遊んだことや他教科で学んだこと、学校や地域・家庭の行事に参加したことなど、児童にとって身近なできごとから題材を見つけられるようにする。また、報告する相手を明確に設定し、その目的に沿って内容や文章を書けるようにする。

| 時 | 課題 | 学習内容 | 授業後の児童の姿 |
|--|-----------------------------|--------------------------------------|---|
| 1 2 | ◎文を書いて知らせたい相手と知らせたいことを考えよう。 | ○知らせたいこと の選び方 | ・身近なできごとから、知らせたいことを見つけ、文を書くことができる。 ・書くことに興味をもち、知らせたい相手と知らせたいことを進んで考えることができる。 |
| 3 | ◎知らせたいことを文に書こう。 | ○文の書き方 ・題名、名前、 文 ○句読点 | ・知らせたいことを、「せんせいあのね…」の書き出しに続けて話し言葉で書くことができる。 |
| 4 | ◎ていねいな言い方で、文を書こう。 | ○敬体 ・です。 ・でした。 ・しました。 | ・いろいろな言い方を、敬体に直すことができる。 ・敬体で書かれた文章に慣れ、敬体を使って文を書くことができる。 |
| 5 6 7 8 | ◎知らせたいことを書こう。 | ○「いつ・誰と・どうした」 ○文のつながり ○様子を表す言葉 | ・伝えたい相手を考えながら、文のつながりに気を付けて敬体で書くことができる。 ・様子を表す言葉のよさがわかり、様子を表す言葉を書き加えて文を書いている。 |
| 9 10 11 | ◎作文を直してみよう。 ◎友達に感想を伝えよう。 | ○直し方 ○読み合いの仕方 ○感想の伝え方 | ・書いた文を自分で読み返し、句読点などに注意して間違いを直すことができる。 ・友達と作文を読み合い、よかったところを伝え合っている。 |
| 12 13 | ◎作文を発表し、感想を伝え合おう。 | ○発表の仕方 ○発表の聞き方 | ・発表の約束をもとに、自分の作文を発表することができる。 ・作文を発表したり、友達の発表を聞いたりし、感想を伝え合うことができる。 |
| 14 (本時) | ◎「は」「を」「へ」を使って文を作しましょう。 | ○「は、を、へ」の読み方 ○文の作り方 | ・文章中の助詞「は」「を」「へ」を見つけたり、助詞「は」「を」「へ」を適切に使い、文を書いたりしている。 |
| 日常生活へ 他教科や絵日記の学習において、今回学習したことを活用して自分の意見を書いたり、正しく文章を書いたりすることができるようにしていく。 | | | |

本時の目標 文章中の助詞を見つけたり、助詞を使って文を書いたりすることができる。

| |
|--|
| <p>前時の概要</p> <p>○作文を発表し、感想を伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の約束のもとに、自分の作文を発表する。 ・作文を発表したり、友達の発表を聞いたりし、感想を伝え合う。 |
| <p>主体的・対話的で深い学びに向けて</p> <p>書いた文章を自分で読み返すことで、正しく書けているか、間違いがないか、確認する活動を通して自分自身の課題を見つけさせる。</p> <p>ふりかえりを行い、何ができるようになったのかが振り返れるようにする。</p> |
| <p>本時の板書計画 5 / 10</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl;"> <p>まとめ</p> <p>「は、を、へ」をつくときは「は、を、へ」をつかう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>絵</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>絵</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>かだい 「は、を、へ」をたたくつつかって ぶんをかこう。</p> <p>ありさんの文</p> </div> </div> <p>わとは わたしは、はしります。</p> <p>おとを おんがくを、ききます。</p> <p>えとへ えき、いきます。</p> |
| <p>一人一人を伸ばす 上位層、下位層にむけて</p> <p>上位層</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「は、を、へ」を使って自由に文を作らせる。 <p>下位層</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「は、を、へ」が入った文型のワークシートを使って書かせる。 ・聴写では、全て自分が書くのではなく、あらかじめ、少し文を入れたワークシートを用意しておく。 |
| <p>今後の展開</p> <p>今回の授業で理解できていても、文章を書くとき間違えて表記してしまうことが考えられる。少しずつ定着できるように多くの文章を読んだり、書いたりすることを通して、繰り返し指導していく。</p> |

| 学習活動 | 学習内容 | 指導上の留意点 |
|--------------------------------|---|--|
| 1 「ありさん」の文章を読み、「は、を、へ」の読み方を知る。 | ○「は、を、へ」の読み方 ・名詞の下につくときは「ワ、オ、エ」と読むこと | ・教師が「は、を、へ」の部分で正しくない読み方をして、間違いに気付かせる。 ・ありさんの文章のどこが間違っていたか、教科書にまるをつけさせる。 ・言葉の下につくときは、「ワ、オ、エ」と読むことを確認させる。 ・本時のめあてを確認し、学習への意欲を喚起させる。 |
| 2 本時の課題を把握する。 | 「は、を、へ」を正しく使って文を書こう。 | |
| 3 例文を使って、「は、を、へ」の使い方を知る。 | ○「は、を、へ」の使い方 ・名詞の下につくときは「は、を、へ」を使うこと | ・教科書の「は、を、へ」それぞれの例文を使って「は、を、へ」の正しい使い方を練習する。 ・助詞は色つきの文字にして、視覚的にわかりやすくする。 ・絵を参考にして「は、を、へ」を使った文章を書かせる。 |
| 4 「は、を、へ」を使って文を書く。 | | ・最初は「は、を、へ」が入った文型のワークシートを用意して書かせる。 ・慣れてきたら、「は、を、へ」を使って自由に作らせる。 ・書いた文を声に出して読み、正しく書けているか確認させる。 |
| 5 書いた文を声に出して読む。 | ○書いた文を読み直して確認すること。 | ・教師が用意した短い文章を聞いて、「は、を、へ」に気をつけて聴写させる。 |
| 6 教材文を聞いて聴写する。 | ○聴写の仕方 | ・どんなのときに「は、を、へ」を使うのか確認させる。できるようになったことを称賛し、これからの学習の意欲につなげる。 |
| 7 本時のまとめと振り返りをする。 | ○振り返りの仕方 ・どんなことがわかったか | 関 助詞「は、を、へ」に気をつけて書こうとしている。 言 助詞の表記と語中の表記の違いを理解し、助詞を使って文を書いている。 |
| 言葉の下につくときは、「は、を、へ」を使う。 | | |